

静岡特産海藻増養殖研究 (海の保全基金充当事業)

(予算区分 研究費 研究期間 2022～2025 年度)
担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 今井基文

【研究の背景とねらい】

- ・ 磯焼けで消失した榛南海域のサガラメ藻場の回復を目指し、沿岸漁場整備実証事業においてサガラメ種苗の大規模な移植を実施しています。
- ・ 移植種苗を速やかに岩盤に活着させる技術を開発すれば、種苗の定着率を高めることができ、より効率的に種苗移植が実施できます。
- ・ 植物ホルモンは近年農業において盛んに活用され生産力向上に寄与しています。
- ・ サガラメの生長、特に仮根の伸長促進させる技術開発を植物ホルモンを活用して行います。
- ・ 開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のテングサ、アラメなど特産海藻の増殖に役立ちます。

【これまでに得られた成果】

(2022 年度までの成果)

- ・ 植物ホルモンのひとつであるジベレリンを添加した海水でサガラメを培養する室内実験を実施したところ、一定の濃度で葉体の生長に促進効果があることがうかがわれました。



図1 ジベレリン添加海水でサガラメの苗を培養

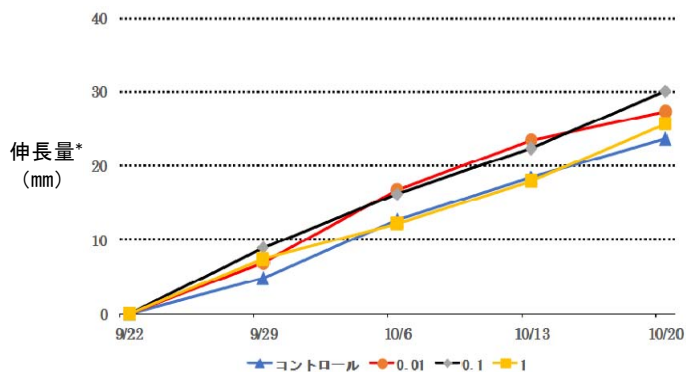


図2 濃度の異なるジベレリン添加海水で培養したサガラメの伸長量の推移

*伸長量：計測時の葉長－試験開始日の葉長

【期待される成果】

- ・ 開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のテングサ、アラメなど特産海藻の増殖に役立てます。

【今後の計画】

- ・ ジベレリン添加培養試験において、最も効果が発揮する濃度を導き出し、サガラメ種苗生産過程での適正なジベレリン使用法を開発します。
- ・ ジベレリンに加えオーキシシン、サイトカイニンなどの植物ホルモンについて、海藻培養試験を行います。
- ・ 各種植物ホルモンの実験結果を通じて、海中に自生している海藻への有効な活用方法について検討します。

(作成 2023 年 4 月)